

学術部 2023年度事業計画

学術部 部長 長谷川美代

学術部

2023年度事業計画

1.第24回 新潟栄養・食生活学会 学術集会 開催

日時：2023年12月9日(土) 10：00～16：00 新潟テルサ 大会議室

特別講演：テーマ及び講師(案) 「脳腸相関」 講師：検討中

演題募集：2023年7月中旬～8月中旬

- ・他職種2題：新潟県保健所長会、新潟県歯科医師会
- ・養成校2題：新潟医療福祉大学、国際調理製菓専門学校
- ・栄養士会6題

抄録締め切り：10月上旬

講演集印刷：11月上旬

2.今後の学会運営の会員への周知について(時期は未定)

- ・現在の形でののは2023年度で終了し、2024年度からは県栄養士会を母体とした運営になることを学会員、多職種、賛助会員、栄養士会会員に周知する。

事業部 2023年度事業計画

2023年6月17日(土)

事業部 小林 昌子

2023年度事業計画

- ① 新潟県栄養士会JDA-DATスタッフ養成研修会開催
- ② 非常災害対応マニュアルの改訂

新潟県栄養士会JDA-DATスタッフ養成研修会

【日時】

1日目・・・ 7月22日(土) 7月30日(日) (どちらか1日)

2日目・・・ 8月06日(日) 8月19日(土) (どちらか1日)

3日目・・・10月21日(土)

【場 所】

1 ・ 2 日目・・・WEB配信 (ZoomのLive配信)

3 日目……………新潟テルサ3階研修室1

【受 講 料】

3,500円 (受講料3,000 + 3日目の昼食として災害食試食実費500円)

JDA-DATスタッフ養成研修会カリキュラム(1,2日目)

	日 程	時 間	区 分	内 容
1日目 (Web)	7月22日(土) か 7月30日(日) (どちらか1日)	08:30～09:00	受付開始	Zoom入室
		09:00～09:05		挨拶 会長 折居千恵子
		09:05～09:20		オリエンテーション JDA-DATリーダー 斎藤トシ子
		09:20～09:50 (30分)	ア.災害への理解	災害の理解
		09:50～12:30 (150分)	ア.災害への理解	災害支援と活動の実際
			～10分休憩～	
		13:20～14:50 (90分)	イ.栄養アセスメント	栄養アセスメントと指導・相談
			～10分休憩～	
		15:00～16:30 (90分)	イ.栄養アセスメント	災害時の食事
	日 程	時 間	区 分	内 容
2日目 (Web)	8月6日(日) か 8月19日(土) (どちらか1日)	08:30～09:00	受付	Zoom入室
		09:00～10:30 (90分)	ウ.コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
			～10分休憩～	
		10:40～12:10 (90分)	ウ.コミュニケーションスキル	被災地にとっての支援活動
			～10分休憩～	
		13:00～14:30 (90分)	エ.臨機応変の対応能力	臨機応変の対応能力と調整能力(Ⅰ)
			～10分休憩～	
		14:40～16:10 (90分)	エ.臨機応変の対応能力	臨機応変の対応能力と調整能力(Ⅱ)

JDA-DATスタッフ養成研修会カリキュラム(3日目)

	日 程	時 間	区 分	内 容
3日目 (会場型)	10月21日(土) 新潟テルサ3階 研修室1 ※受講料を受付にて 徴収いたします。 (現金のみ)	09:30～09:35	挨拶	
		09:35～10:05 (30分)	講義1	新潟県の防災対策の基本 新潟県防災局
		10:05～10:10	～準備・休憩～	
		10:10～11:40 (90分)	講義2	災害医療について 新潟大学災害医療教育センター 高橋 昌 先生
		11:40～12:30 (50分)	演習1	災害食の理解
		12:30～13:00	～昼食・休憩～	
		13:00～14:50 (110分)	演習2	ケースから学ぶ災害時栄養・食生活支援活動
		14:50～15:00	～10分休憩～	
		15:00～16:20 (80分)	演習3	災害対応カードゲーム教材を活用した災害 ジレンマ体験
		16:20～16:45 (30分)		終了書授与・事務連絡 閉会の挨拶

JDA-DATのメンバー構成（確認）

①「JDA-DATリーダー」・・・日本栄養士会が育成（リーダー）

💡 「都道府県栄養士会会長の推薦」のもと、日本栄養士会主催のリーダー育成研修を受講 する事で登録（管理栄養士・栄養士として5年以上の経験者が必要）

②「JDA-DATスタッフ」・・・都道府県栄養士会が育成（スタッフ）

💡 各都道府県栄養士会で開催しているスタッフ育成研修を受講、県会長承認のもと日栄へ登録（管理栄養士・栄養士として5年以上の経験者が必要）

※スタッフ研修は「養成研修」18時間のカリキュラムが必要

登録後に継続して参加する「教育研修」がある

新潟県栄養士会JDA-DATスタッフ教育研修会

JDA-DATスタッフ養成研修終了



県栄養士会長が承認、日栄へスタッフ登録



各県栄にてスタッフ教育研修会を運営

※スタッフは登録を継続するため2年に1回以上教育研修が必修

非常災害対応マニュアルの改訂

- 2022年度災害マニュアル検討委員会を開催し討議

- ① 支援基準に関する規定の見直し
- ② 組織体制の見直し（組織図、連携図）
- ③ アクションカードの見直し
- ④ 連絡体制の確立→各支部、職域事業部での連絡網の整備
- ⑤ 新潟県防災訓練への参画→次年度計画の立案

※今年度は数名で視察参加の予定

●報告

- 1.新潟県栄養士会HP→「活動紹介」の整備
 - ・2022年度分までは報告をUPする
 - ・2023年度からは、フォーマットを統一、役員名簿、予定、報告のUP作業を行う
- 2.指南書(1.の作業マニュアル)の作成



●今年度の予定

- 今上がっているHPの情報の整理を進める
- 年2回HP委員会(ZOOM)を開催する予定
- 第1回(7月中旬)・第2回(12月初旬)

- 広報部長として初めて携わった栄養新潟‘23vol.55が発刊した効果があったのか、振り返り、反省した。

※機関誌とは…

- ・広辞苑よりー団体または個人が、その活動内容などの発表・宣伝・連絡のために発行する新聞や雑誌類。
- ・大辞林よりー政党や団体がその政策・方針・活動内容などを発表・宣伝するために発行する新聞・雑誌

【機関誌「栄養新潟」の目的】

新潟県栄養士会の活動内容・方針などを発表・宣伝・連絡をする。

【vol.55が目的を達成できていたか内容を評価】

- ・県栄の活動内容の発表はできていた。
- ・県栄の活動内容の宣伝・連絡はできていたのか。
- ・方針の発表・宣伝・連絡はできていたのか。

この2点については目的を達成できていなかった可能性が大きい

【vol.55の反省】

活動内容が**過去の内容**に偏っていたのではないかと。

=**現在・未来の内容**については、ほぼ発表できていなかった。

=受け取った会員・団体にとっては、県栄の「**今**」と「**これから**」の情報は少なかった。²

【今後の「栄養新潟」について 変更案】

- ① 内 容 : ●過去の活動(実績)、現在・未来の活動(予定や展望)を載せる。
●方針を載せる。

- ② 形 : 「栄養新潟」に定時総会資料を盛り込む ※大阪府・千葉県・兵庫県各栄養士会はこの形

- ③発刊時期 : 次号‘24vol.56を2024年2月発刊を2024年5月に変更

※②・③を変える

メリット 1.新潟県栄養士会の情報を1冊に集約できる

2.経費節減

3.発刊時期が年度初めになる。年度末よりも熟読してもらいやすい時期

デメリット1.発刊時期が変わる 現在の栄養新潟の発刊作業と総会資料の作成時期が重なる

対策:現在の執行役員で計画的に可能な所は前倒して作業を行う。

2.1冊のボリュームが厚くなるのではないか

対策:精査する必要がある

- ④視覚 見てもらえる機関誌を目指す 図や写真を多用、段落を区切る等

栄養新潟‘24vol.56 について(案)

山川広報部長

内 容			執筆者・担当 (毎年支部で回り順)
表紙	表紙写真 写真の説明 (表紙裏 目次)	200～250字	
1.会長 あいさつ		A 4 1p	折居 会長
2.定時総会資料			
3. トピックス2題 (1.仮テーマ)新潟県栄 養士会の災害対策	(案)・現在の対策 これからの対策 日栄の取り組み、県栄の取り組み、JDA- DATリーダー、JDA-DATスタッフ養成・関 川村訓練 等 詳細は執行役員で検討中	A 4 2 p	本部・事業部
(2.仮テーマ)新潟県栄養 士会の地域ケア活動に ついて	(仮題案)・地域ケア担当の配置について 地域ケア担当になって 等 (仮題)・新潟県栄養士会 栄養CS活動につ いて 登録について 詳細は執行役員で検討中	A 4 1P + A 4 1P	本部・ 栄養CS部

栄養新潟‘24vol.56 について(案)

山川広報部長

内 容			執筆者・担当
4.事業報告	業務執行事業部の活動報告		
	学術部	A 4, 1/2 p	各事業部長
	事業部	A 4, 1/2 p	
	広報・情報部	A 4, 1/2 p	
	研修部	A 4, 1/2 p	
	CS部	A 4, 1/2 p	コーディネーター
5.支部だより	村上・新発田・新潟市	A 4,1/2 pずつ	10支部長
	三条・長岡・柏崎		
	魚沼・十日町・上越・佐渡		
6.職域事業部だより	医療・学校健康教育・勤労者支援・研究教育	A 4,1/2 pずつ	職域事業部長
	公衆衛生・地域活動・福祉		
7.新人紹介コーナー	(1)新潟県立大学	全体でA4 2P (A4,1/3pずつ)	
	(2)新潟医療福祉大学		
	(3)悠久山栄養調理専門学校		
	(4)北里大学保健衛生専門学院		
	(5)北陸学園		
	(6)国際調理製菓専門学校		

栄養新潟‘24vol.56 について(案)

山川広報部長

内 容			執筆者・担当
8 賛 助 会 員 PRコーナー	賛助会員	要検討	事務局
9. 本 部 だ よ り	・受賞おめでとう・入会・変更案内など	A 4,2p	

※トピックス 2 題・本部だよりのページ数は必要に応じて変更する可能性も有り

「5.支部だより」「6.職域事業部だより」の内容について

【vol.55まで】HP「活動報告」に掲載している内容とほぼ同じのところが多い

【vol.56 からの変更案】

- ・HPのQRコードを掲載
- ・支部・職域事業部の会員にむけた「おたより」=今後の予定や展望、部長や会員の意見など広報したい内容を掲載
 - 例) ・部長に就任して ・支部・職域の特徴 ・役員会での話題
 - ・部長(会員)の普段の仕事紹介 ・部長(会員)の得意としている栄養士業務
 - ・支部・事業部内の栄養士活動のお誘い掲示板的内容 など

—支部長・事業部長のみなさまにお願い—

今のうちから見る側を意識した「支部だより」「職域事業部だより」の誌面・内容を考え準備していただきたい

(可能な限りではありますが、部長の写真を掲載する等も見たくなる誌面づくりになるのでは?)

【今後の「栄養新潟」について 変更案】

- ① 内 容 : ●過去の活動(実績)、現在・未来の活動(予定や展望)を載せる。
●方針を載せる。
- ②形 : 「栄養新潟」に定時総会資料を盛り込む
- ③発刊時期 : 次号‘24vol.56を2024年2月発刊を2024年5月に変更
- ④視覚 : 見てもらえる機関誌を目指す 図や写真を多用、段落を区切る等

本日、ご意見をいただき次第、業務執行部・本部と検討・準備をすすめたい。

栄養ケア・ステーション部

部長 久志田 順子

委託事業 新潟県後期高齢者医療広域連合低栄養対策事業 （7年目）

事業内容 （１）訪問栄養指導相談

- ・ **対象者** 新潟市に住所があり、在宅在住の新潟県後期高齢者医療制度の被保険者
 - ・ BMI 21.5kg/m²未満かつ1年間に2kg以上体重減少のあった方
 - ・ 新潟県後期高齢者医療広域連合長が必要と認めた方※医療保険及び介護保険で栄養指導・相談サービスを受けている者は対象外
- ・ **対象者数** ・ 本年度新規訪問対象者 100人程度 概ね6か月間で3回訪問（6月～）
 - ・ フォローアップ訪問対象者 40人程度 （昨年度3回訪問者でかつ希望者）（10月頃～）

（２）栄養指導担当管理栄養士

- ・ 県CS登録者・新潟市か新発田市在住・前年度在宅事業研修会参加者
 - ・ 事業研修会（4月開催 新規担当管理栄養士は受講必須）参加者
- ・ 事業呼びかけ- 県CS登録者にメール配信し募集
- ・ 管理栄養士数- 23名予定

（３）事業コーディネート（コーディネーター 2名 2日/週）

- ・ 事業依頼者との連絡
- ・ 訪問担当管理栄養士への業務依頼と連絡調整
- ・ 研修会開催（1回/年）
- ・ 事業費 5,980,200円

事業目的

- ・ 要介護高齢者等の栄養状態の維持・改善のため、切れ目のない適切な栄養ケアの提供を行う。
- ・ 効果的な治療、重症（重度）化予防、自立支援につながる、リハビリ・口腔管理・栄養管理の一体的運用のために、多職種と協働した栄養管理が展開できる連携ツールの充実を図り、体制整備を推進する。

事業期間

2023年（令和5年）～3年間

事業で目指すもの

●アウトカム

<医療>

- ・ 入院時・退院時の栄養情報提供件数
- ・ 入退院時カンファの栄養士の同席件数

<介護>

- ・ LIFE（科学的根拠） 関連加算数 -（食形態コード記入）
- ・ 栄養マネジメント強化加算数
- ・ 栄養情報提供数

※県内の医療・福祉関連給食提供施設にアンケートを依頼（1ヶ月間/年～3年実施）

●アウトプット

- ・ サイト登録施設数 ・ サイト閲覧数 ・ 研修会参加団体・参加者数

※サイト整備：県栄養士会ホームページ 食事形態一覧

※研修会開催：在宅医療（栄養）推進事業 研修会

◇事業：取り組み基本姿勢

●県内関連多職種団体との連携

県医師会・県歯科医師会・県薬剤師会・県看護協会・県リハビリテーション専門職協議会・県介護支援専門協会等
事業計画段階より 本事業についての意見, アドバイス, 提案を頂き 事業に反映させる。

◇事業：ツールの整備

●嚥下調整食形態一覧表

- ・医療・介護・障害施設で嚥下調整食を提供している団体が共有できる情報掲載のツールとする。
- ・県栄養士会HPに専用サイトを作る。（一覧表更新、入力の簡便化、アクセスをカウント機能等業者に依頼）
- ・県内登録施設数の増・最新情報の提示。（地域保健所栄養士・栄養士会支部の協力）

●栄養情報提供書 ひな形の作成

- ・同職種連携- 医療施設・福祉施設・在宅 間の栄養ケア情報提供の推進を目的とする。
- ・栄養提供書ひな形の作成。
- ・栄養情報提供書活用推進の検討と取り組み。

●多職種が実施する 栄養スクリーニング・アセスメント支援のツールの検討

- ・多職による 早期の低栄養のきずきを促し 情報をつなげる。
栄養スクリーニング・アセスメント表の作成と活用の推進。

◇事業：主な事業項目

●評価委員会開催

1回目（7月上旬）計画案提示

- ・研修会等のコーディネイトの依頼（研修会：総合研修会・支部研修会・人材育成）
- ・ツール整備及び活用 について 意見、検討、協力依頼

2回目（3月上旬）

- ・年度活動報告と次年度事業案について検討

●嚙下調整食形態一覧表

- ・情報ツールとしての内容充実と活用の推進

●栄養情報提供の検討

- ・栄養情報提供書ひな形及び普及について検討
- ・取り組み状況のアンケート実施（アウトカム指標）

●研修会開催

- ・多職種参加 総合研修会（Web）
- ・多職種参加 支部研修会（集合型 支部1か所）
- ・食形態分類の知識を深める研修会 人材育成研修会（Web R5年度は栄養士を対象）
※食形態分類について 段階別調理等 収録 配信

●県民向け講座

- ・栄養指導媒体資料作成（令和5年度）

◇事業：進め方

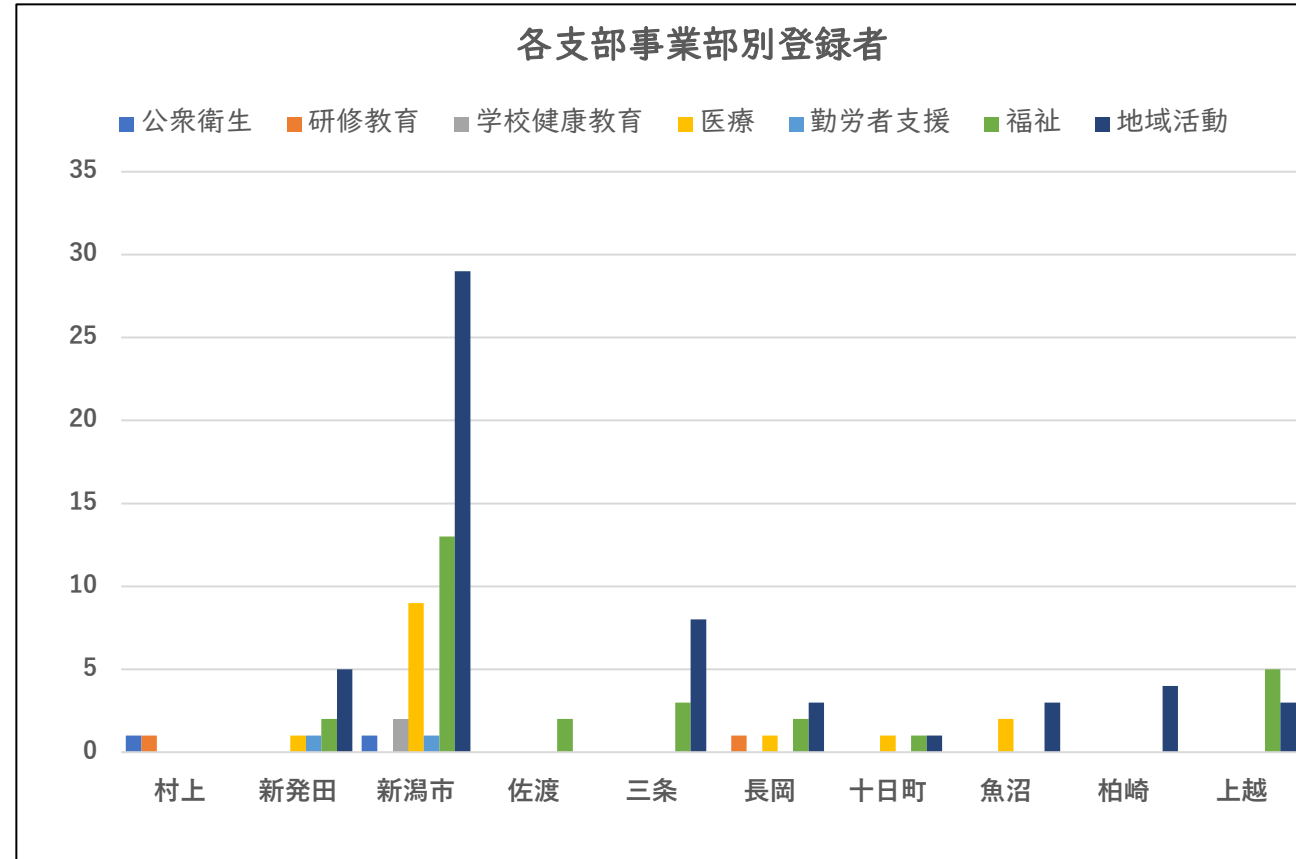
- 県栄CS委託事業として、各関連団体と連携し事業をすすめる。
 - ・ 評価委員 ・ 評価委員ワーキング
- 事業検討員会設置
 - ・ 事業アウトカム アウトプット 指標の検討
 - ・ 事業内容の検討 — 事業項目別ワーキンググループ
- 栄養情報共有の推進
 - ・ 現状把握
 - ・ 推進活動 （ツールの検討 -同職種連携及び多職種連携）
- 支部栄養士会及び地域保健所栄養士との協働
 - ・ 各地域作成の嚥下調整食の運用
 - ・ 状況集約、会員周知
 - ・ 人材育成研修会参加
 - ・ 総合研修会参加
- 県CS 事業コーディネイター 2名（3日/週） ・ 事務 1名（3日/週）

ケアステーション登録

申し込み 新潟県栄養士会 HP グーグルフォーム入力
 栄養士会会員 年度ごとに更新

支部別 事業部 (人)

支部	事業部							計
	公衆衛生	研修教育	学校健康教育	医療	勤労者支援	福祉	地域活動	
村上	1	1	0	0	0	0	0	2
新発田	0	0	0	1	1	2	5	8
新潟市	1	0	2	9	1	13	29	55
佐渡	0	0	0	0	0	2	0	2
三条	0	0	0	0	0	3	8	11
長岡	0	1	0	1	0	2	3	7
十日町	0	0	0	1	0	1	1	3
魚沼	0	0	0	2	0	0	3	5
柏崎	0	0	0	0	0	0	4	4
上越	0	0	0	0	0	5	3	8
計	2	2	2	14	2	28	56	105



登録者支部別 活動希望地区

支部	活動希望地区									
	村上	新発田	新潟市	佐渡	三条	長岡	十日町	魚沼	柏崎	上越
村上	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
新発田	1	7	3	1	1	1	1	1	1	1
新潟市	4	12	46	2	8	3	2	2	1	2
佐渡	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
三条	1	2	3	1	7	4	1	1	1	1
長岡	0	0	0	0	1	5	0	0	1	0
十日町	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1
魚沼	1	1	1	1	1	2	2	5	1	1
柏崎	0	0	0	0	0	3	1	1	4	2
上越	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6
計	10	24	54	7	19	19	9	11	11	14

希望事業登録者数

希望する事業(複数選択可)										
県民の栄養及び食に関する支援				在宅医療・介護等						
A. 特定保健指導	B. スポーツ栄養	C. 料理・栄養教室・イベント	D. 講演会講師	A. 診療報酬・介護報酬による栄養食事指導	B. 報酬外の医療機関や行政連携栄養食事指導	C. 新潟市フレイル在宅訪問栄養食事指導	D. 地域ケア会議参加等	E. 福祉施設(通所、グループホーム等)との契約指導	F. 料理教室、栄養教室等 企画・運営	G. 医療・介護関連の講演会講師
36	13	49	30	33	38	34	47	18	19	18

会費について

- ・ 会費が高い（2件）
- ・ 金額なりの情報発信をしてほしい。



会費内訳 18,000円 （日本栄養士会 6,500円 + 新潟県栄養士会 11,500円）

* 会費につきましては、他県と比べても高いことは十分認識しており、現状会費の減額も会員減少のなか非常に厳しい状況であります。

職能団体として地域住民と関わるのが強く求められている中で、会員の皆様と管理栄養士・栄養士のアピールをしていくと共に、研修会・情報提供・業務相談などで皆様のサポートができる会にしたいと思います。

* 情報発信については現在ホームページの充実をはかり、Instagramも含め随時更新を行っております。また、メールの一斉送信も行っておりますのでご確認いただきたいと思います。今後も更なる内容の充実をはかりたいと考えております。

委任状の押印の見直しについてご検討いただきたい。



押印を廃止し、自署のみの委任状も効力があるということで来年度より変更する方向で検討しております。

児童福祉分野の研修や取り組みなどをもっと増やしてほしい。
高齢福祉に重点を置きすぎている。
栄養士会に入っている意味がない。



ご意見の通り、超高齢社会の対応が多い現状です。
しかし同時に少子化でもあり、今後は日本栄養士会も出生前からの対応を考慮していく予定です。
また今年度は学校健康教育事業部が生涯教育実務研修会にて子どもの食行動について計画をしております。

栄養教諭を教諭・養護教諭・事務職員のように必置の職員となることを望みます。せめても定数改善は必要と考えます。栄養教諭の就職を希望しても数人の採用または採用無しの自治体が多いです。栄養教諭の絶対数の不足が食育推進を阻む一因と考えます。



ご意見につきましては県栄養士会としても同感です。
この問題は県栄養レベルで解決策を見出すことは困難であり、このような声を自治体、国へと上げて審議してもらわなければなりません。

上記のような声を集約し、国へ上申してくれる組織が日本栄養士連盟です。この団体は管理栄養士・栄養士が組織し、管理栄養士・栄養士の地位向上のため活動を行っております。新潟県においても日本栄養士連盟新潟支部があります。

- ③支部体制づくりの今後の予定
- ④役員改選に伴う選定基準及び役員選考員会について
- ⑤認定ケア・ステーションについて

専務理事 柄沢 弘子

支部体制づくりの今後の予定

2024年度の新支部体制

佐渡・三条・長岡・十日町・柏崎・上越 の6支部で実施

1.新支部体制に向けての進捗状況

(1) 6支部の実態把握

2022年度に開催された公益1と多職種団体会議の調査を実施し、内容を確認。

(2) 6支部の地域栄養ケア担当窓口の適任者を県栄養士会と支部長で検討。

支部名 佐 渡 支 部 **2022年度（2022年4月～2023年3月末） 公益1 ・ 多職種多団体会議**

注1) 2022年度に実施した 公益1 及び多職種他団体会議のみ記載してください。 事業区分に○をつけてください												
注2) 就任者は出席(参加者)支部役職を記載してください。												
注3) 役職は、依頼役職名を記載してください。												
事業 区分	事業名または 会議名	開催回数 (年度)	開催日	主催者 (依頼主)	内 容	就 任 者	役 職	謝金 有 無 * 有の場合、金額 も記入	旅費 有 無	事前会議		
										有 無 回数	謝金 有 無 * 金額も記入	旅費 有 無
○ 公益1 多団体	(例) 認知症予防のつどい	2回	6/1 11/15	新潟市、 地域包括支援セン ター	栄養指導 食事相談	支部長 他2名	委員	有 2000円/1人	有	有2回	有 500円	有
○ 公益1 多団体	食育普及啓発事業	1回	10月23日	佐渡市	・惣菜の販売 ・栄養相談	支部長 他5名	役員	無	有	有1回	無	有
○ 公益1 多団体	佐渡市地域包括ケア会議	3回	①5月19日 ②11月24日 ③3月16日	佐渡市 高齢福祉課	①地域課題の検討結果 と意見交換 ②高齢者虐待対応 ③災害時における対応	支部長 副支部長	委員	無	無	無	無	無
○ 公益1 多団体	佐渡市健康づくり推進懇談会	1回	2月16日	佐渡市 健康医療対策課	佐渡市の健康課題と SIZES(サイズエス)の取 組について	支部長	委員	無	無	無	無	無
○ 公益1 多団体	佐渡市高齢期の 食支援推進会議	1回	2月22日	佐渡市 高齢福祉課	①普及啓発 ②多職種連携 ③サービスの質の向上 (ヘルパー研修)	支部長	委員	無	無	無	無	無
○ 公益1 多団体												
○ 公益1 多団体												
○ 公益1 多団体												
○ 公益1 多団体												
○ 公益1 多団体												
○ 公益1 多団体												
○ 公益1 多団体												

3

2.今後の予定

- (1) 実態調査票を精査し、2024年度が多職種団体会議の出席者を県栄で検討し、支部長と案をつくる。
↓
- (2) 地域栄養ケア窓口担当の適任者を決定し、窓口担当者に説明および了解を得る。
↓
- (3) 6月17日の総会後の支部長会議で2024年度に向けての説明を行う。
 - ①多職種団体会議の出席者の最終確認
 - ②地域栄養ケア窓口担当者の確認
 - ③地域栄養ケア窓口担当者への事業説明会をどのように行うかを検討↓
- (4) ホームページにて支部体制の経過をアップする。
↓
- (5) 6支部で今年度、新規に栄養ケア・ステーションに登録した人を対象にメールにて支部新体制の説明資料を送り、質疑応答を受ける。
↓
- (6) 6支部の多職種団体関連会議の主催者宛に地域栄養ケア新設の説明文書を発送 (2024年3月予定)
* 主催者の正しい名称が必要

協議・報告事項④

○役員改選に伴う選定基準について

<支部長の選定基準>

1. メールおよびZoomができること
2. 理事会に出席できること

(支部長は県栄養士会の最高決定権をもつ立場にあるため)

○支部体制の変更に伴う支部役員の選出について

支部長・副支部長・事務局・ホームページ委員を選出。
(兼任も可)

その他の役員については、支部の実情に合わせて各支部で協議する。

2024年度役員改選について

役員選考規定

(役員選考委員会の構成等)

第4条 役員を選出に当たっては、役員選考委員会を設置し、次に掲げる委員で構成する。委員は会長が委嘱する。

(1) 直前会長 1名

(2) 理事会で選出された現任理事 2名

(3) 現任代表理事が指名した正会員 2名

2 役員選考委員会には委員長を置く。委員長は委員による互選とする。

3 役員選考委員会は、委員である現任理事の任期終了とともに解散する。

協議・報告事項⑤

認定ケア・ステーションの現状について

第1号 しなの薬局 (認定期間：2021年9月1日～2024年8月31日)

第2号 よりそいーと魚沼 (認定期間：2022年9月1日～2025年8月31日)

第3号 新潟中央ヤクルト販売株式会社

(認定期間：2023年4月1日～2026年3月31日)

新潟中央ヤクルト認定栄養ケア・ステーションの活動

○2009年よりヤクルトグループは（公社）日本栄養士会と健康に関する活動の一環として全国で地域住民の方を対称とした「栄養相談・食生活相談イベント」を開催。

○2023年度計画

イベント：「栄養相談・食生活相談イベント」の開催
県栄養士会と協同で行う

対 象 ：新潟市・長岡市・佐渡市の地域住民

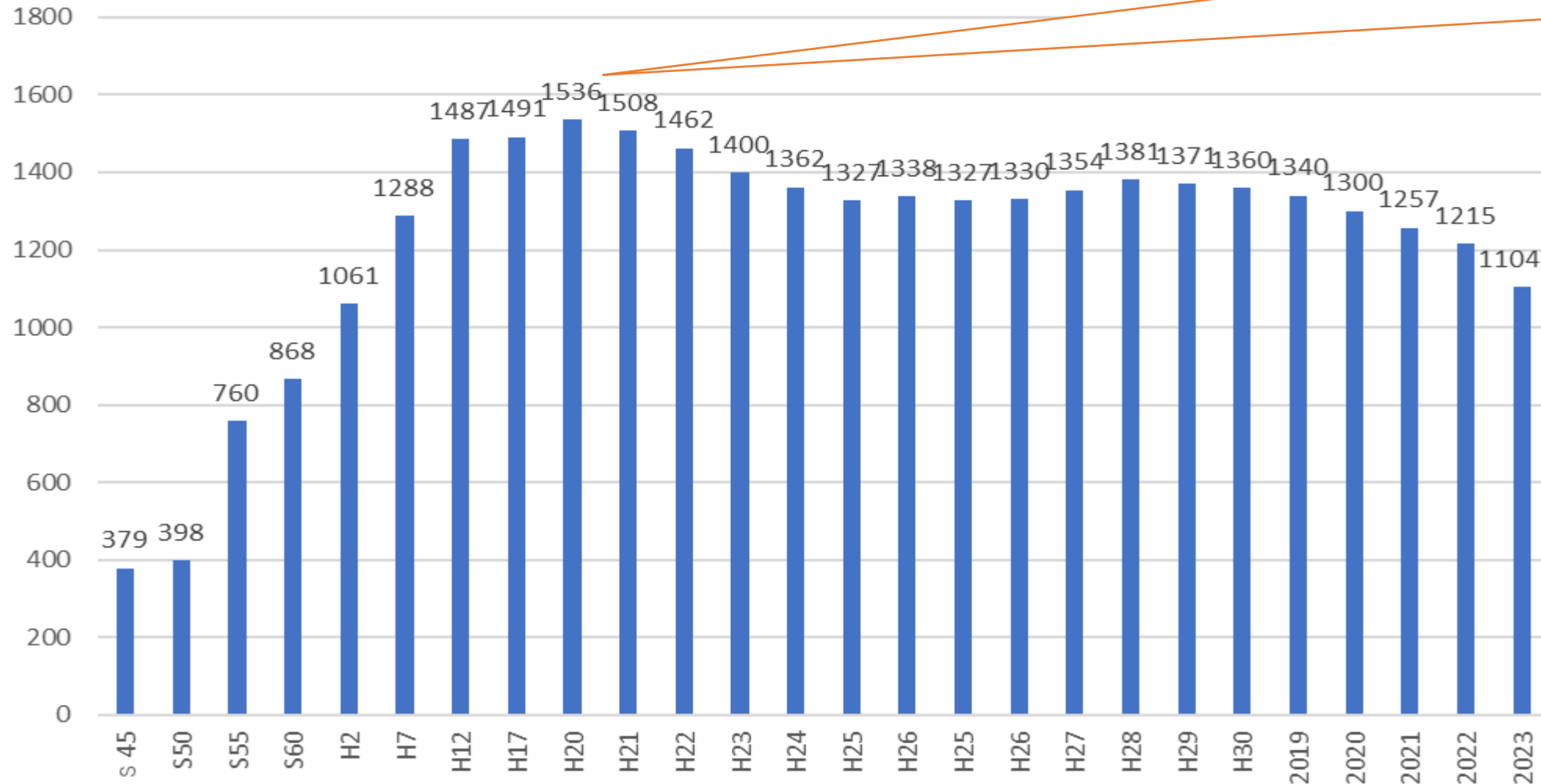
会員数について

今後の対応

事務局長 阿部 幸子

会員数について

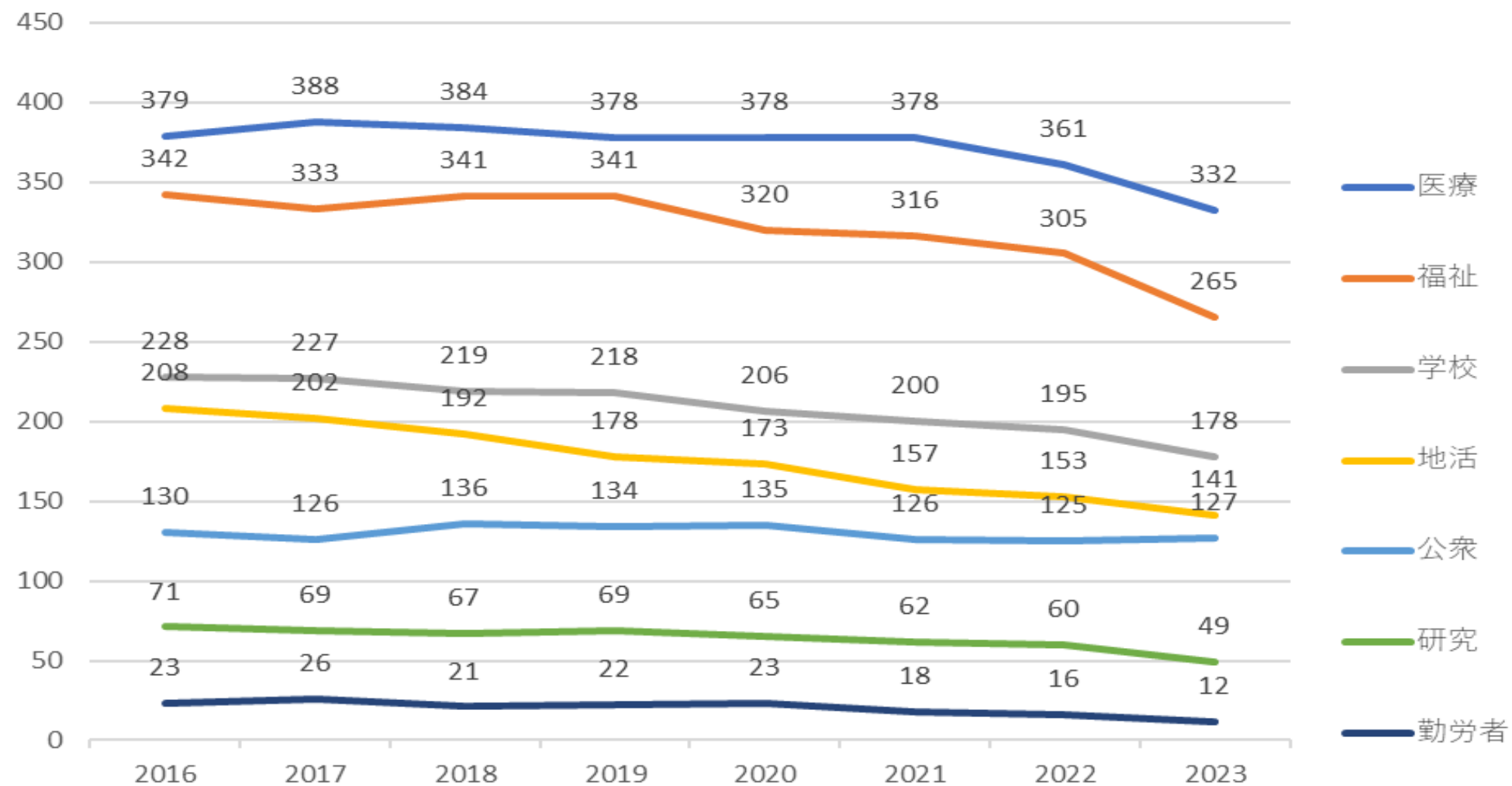
総会員数



H20年度年度と比較
－432名
－4,968,000円
(6月5日現在)

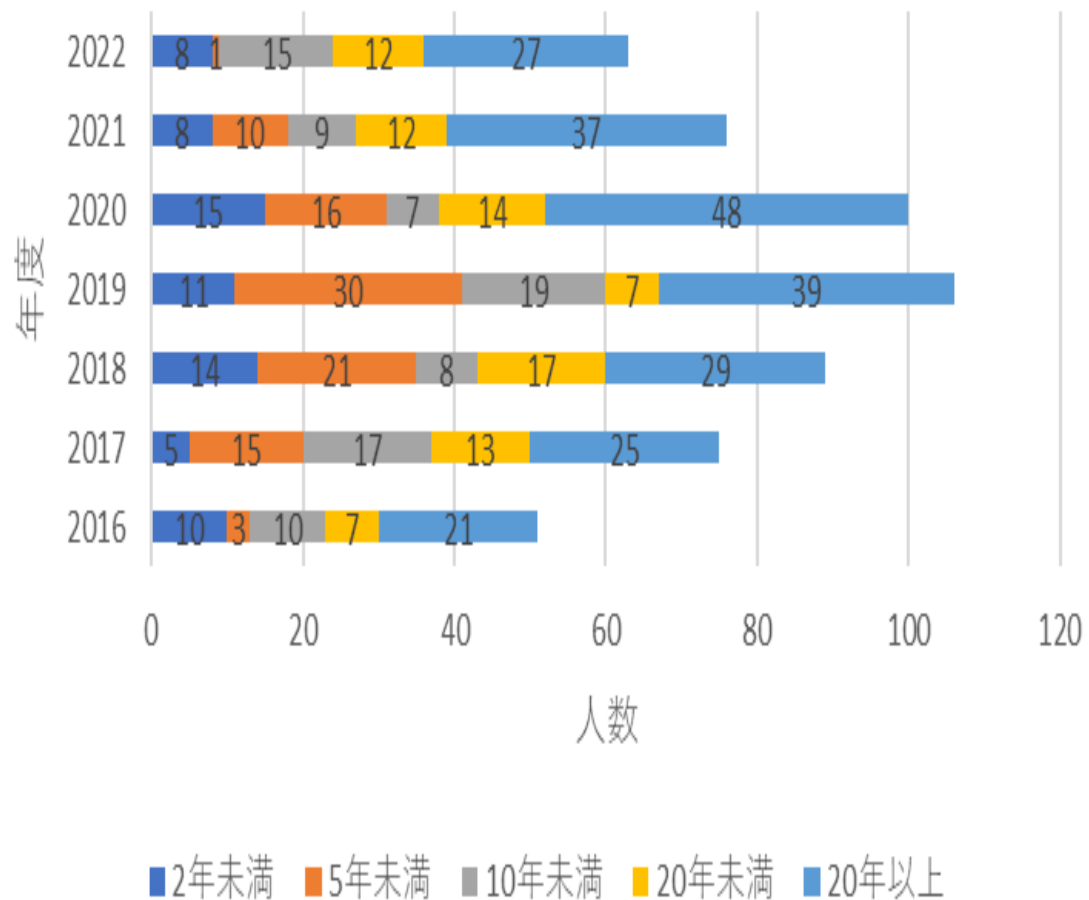
2022年度と比較
－111名
－1,276,500円
(6月5日現在)

職域別

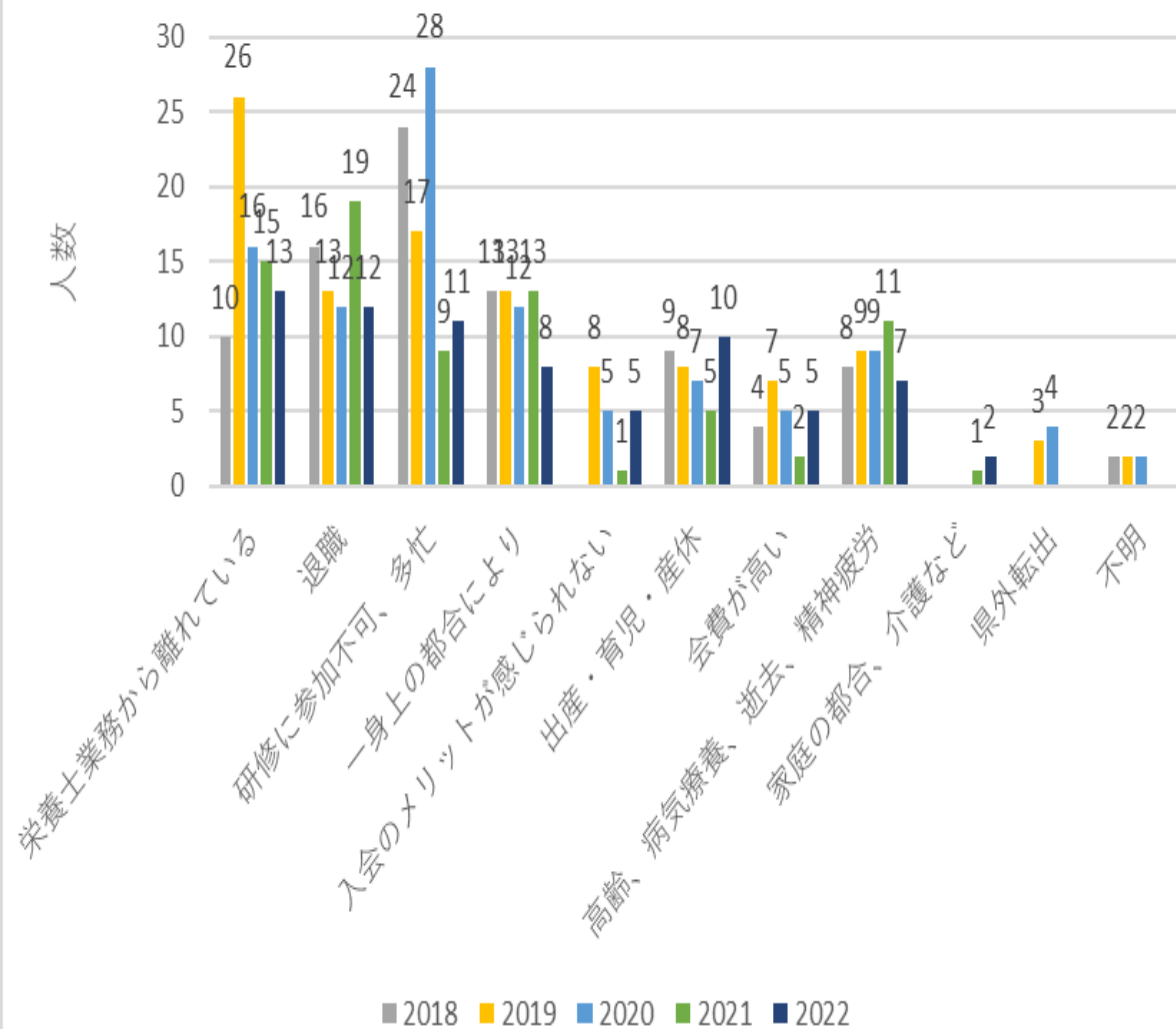


	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2023年未納
新入会	81	70	97	92	60	53	50	33	
再入会	25	18			13	19	10	14	
継続			1263	1248	1227	1185	1155	1057	
退会	75	89	106	100	76	73	66		
総会員	1381	1371	1360	1340	1300	1257	1215	1104	92
医療	379	388	384	378	378	378	361	332	22
福祉	342	333	341	341	320	316	305	265	34
学校	228	227	219	218	206	200	195	178	11
地活	208	202	192	178	173	157	153	141	11
公衆	130	126	136	134	135	126	125	127	6
研究	71	69	67	69	65	62	60	49	6
勤労者	23	26	21	22	23	18	16	12	2

退会者在年数



退会理由



会員増対策

北林案

支部事業を行う際は、栄養士・管理栄養士養成校へも案内を送り、興味ある学生は出席・参加を可能にする。

学生のうちから支部と関わりを持つことで、支部への愛着もつく、先輩栄養士・管理栄養士を早期から交流を持つことでいろいろな分野の話を聞くことができる。ひいては卒後会員になる率も増えるのではないか・・・

実行するかは各支部長、各支部にお任せ

対策（常任理事会にて）

①退会理由の調査をして原因究明。

②若い会員を退会させない対策を考える。

若い会員に

人材育成を手掛けている会社の例を参考にする

新しい視点で行動する。

③同じ職場での勧誘活動

④シルバー会員の会費を減額にする。

⑤産休、育休会員への方策

⑥会費の支払い方法・・・ペイペイ、クレジット決済

他にないか・・・

①連盟から総会の報告

②事務局より

貸出用タペストリー、パネル、のぼり、自助食器、ブレンダー等をHPに新たに追加掲載しました。物品貸出票に必要事項を記入し事務局まで提出してください。
早めに申請をお願いします。